

**平成16年度
東海・北陸地区国立大学法人等技術専門職員研修
(機械コース)**

小塚 基樹¹⁾、中西 幸弘¹⁾、山本 浩治¹⁾、立花 一志¹⁾、栗本 和也²⁾

¹⁾工学研究科・工学部技術部 装置開発技術系

²⁾工学研究科・工学部技術部 電子・情報技術系

はじめに

16年度の東海・北陸地区国立大学法人等技術専門職員研修(機械コース)は、平成16年9月1日より9月3日の日程で名古屋工業大学にて開催された。

本コースは講義・実習・ポスターセッション・施設見学から構成されており、実習については、2班に分かれ実施され、16の大学・高専・研究所等から32名の参加があった。

次表に本コースの日程及び内容を示す。

日程		講義内容等
第1日目 9 / 1 (水)	9:40 ~ 10:30	開講式・写真撮影・オリエンテーション
	10:40 ~ 12:00	講義 労働安全衛生関連 「技術職員として必要な安全衛生の心得」 労働安全コンサルタント 寺倉松男
	13:00 ~ 14:30	講義 溶接関連 「鉄鋼材料溶接部の組織と割れ」 名古屋工業大学おもい領域 助教授 佐伯義隆
	14:40 ~ 16:10	講義 機械工作関連 「生産加工における環境対応技術」 名古屋工業大学しくみ領域 助教授 系魚川文博
	16:10 ~ 17:15	学内施設見学
第2日目 9 / 2 (木)	8:45 ~ 12:15	実習 1班 溶接 2班 きさげ
	13:15 ~ 17:15	実習 1班 きさげ 2班 溶接
第3日目 9 / 3 (金)	8:45 ~ 10:10	講義 知的財産(特許)関連 「企業戦略と知的財産」 名古屋工業大学テクノイノベーションセンター 産学官連携マネージャー 盛田謙三
	10:20 ~ 12:00	ポスターセッション
	13:00 ~ 16:40	施設見学 オークマ株式会社(大口本社)
	16:40 ~ 17:15	閉講式

1 日目

講義 労働安全衛生関連「技術職員として必要な安全衛生の心得」

労働安全衛生法、労働災害事例、安全講話について講義を受けた。

講義 溶接関連「鉄鋼材料溶接部の組織と割れ」

溶接割れには凝固・冷却時に受ける応力と変形、凝固の様式、合金元素や不純物元素の種類と濃度、溶接部の組織などが影響する。これらの要因と割れの関係について検討し、割れの防止法、健全な溶接部の作製法について講義を受けた。

講義 機械工作関連「生産加工における環境対応技術」

生産加工の中でも切削加工に焦点を絞って、現在研究が進められている環境対応加工技術とその動向について講義を受けた。

2 日目

実習

「きさげ実習」

きさげ作業は、工作機械の摺動面や定番など、面精度を必要とする個所を仕上げる方法としてなくてはならない作業であり、機械の精度を決める重要な役割をになっている。本実習では円盤（140 mm）表面をきさげ作業で仕上げ、基本技術の大切さについて学んだ。

「溶接実習」

アーク溶接機、MIG溶接機を使用し、SS400とS45Cの突合せ溶接を行った。その後、強度試験を行いその評価をした。また、プラズマ切断も行った。

3 日目

講義 知的財産（特許）関連「企業戦略と知的財産」

企業における知的財産の侵害事件への対処法について講義を受けた。また、企業の知的財産の所有対象が業務以外の物まで含まれることを知り大変驚いた。

ポスターセッション

今回初めて企画されたこの試みは、受講者各自が業務内容をA0サイズのポスターにまとめ発表する物で、それぞれの受講者が日頃どのような仕事をしているのかを知る上で大変有意義であった。

施設見学

今回の施設見学は、大口町のオークマ株式会社へ行き、NC工作機械の製造過程を見学した。見学時間が短かったことも有り余り詳しく見て回れなかったのが残念だった。

最後に、本研修の実施のためご尽力いただいた、名古屋工業大学の講師の方々をはじめ、進行をバックアップしていただいた事務局や、技術職員の皆様に感謝いたします。